

【経営学科 小論文】

問一	①	②	③	④
	功利	軸足	招く	造語
	⑤	⑥	⑦	⑧
	因果	担保	過剰	絶妙
	⑨	⑩		
	捉〔捕〕(える)	暴走		
問二	I	II		III
	ちよめい	こけおど		かじと
	IV	V	VI	VII
	ろてい	あいまい	こうちやく	ないせい
	VIII	IX	X	
	べんえき	ふしょうじ	もと	
問三	<p>課題文にもとづき、エリートたちが「美意識」を鍛えることになった理由として、著者は三つの問題点を挙げていると私は考える。</p> <p>第一の問題点は、「論理的・理性的な情報処理スキルの限界」が露呈しつつあるということだ。まず、多くの人が分析的、論理的な情報処理のスキルを身につけた結果、世界中の市場で「差別化の消失」という問題が発生している。また、今日の世界状況は、問題を構成する因子が増加し、かつその関係が動的に複雑に変化しているので、これまで有効とされてきた論理的思考のアプローチが機能しないという問題点もある。この世界において、あくまで論理的・理性的であろうとすれば、いつまでも合理性は担保されず、意思決定はできないことになる。そういった状況の中では、全体を直観的につかむ感性と、「真・善・美」が感じられる施策を創出する構想力や創造力が企業経営に求められる。</p> <p>第二の問題点は、「全地球規模での経済成長」が進展しつつある今、市場で戦うためには、精密なマーケティングスキルを用いて論理的に機能的優位性や価格競争力を形成する能力よりも、人の承認欲求や自己実現欲求を刺激するような感性や美意識が重要になっているということだ。全ての消費ビジネスがファッション化しつつある世界においては、企業やリーダーの「美意識」の水準が、企業の競争力を大きく左右することになる。</p> <p>第三の問題点は、現在のように変化の早い世界においては、ルールを整備はシステムの変化にひきずられる形で、後追いでなされるということだ。そのような世界において、クオリティの高い意思決定を継続的にするためには、明文化されたルールや法律だけを拠り所にするのではなく、内在的に「真・善・美」を判断するための「美意識」が求められている。</p> <p>以上、課題文から読み取れると私が考える、「世界のエリートは『美意識』を鍛えている」と著者が考える理由である。(786字)</p>			